

★★令和4年度★★



# 小坪小だより

10月号

横浜市立小坪小学校

校長 高田 桂太郎

横浜市港南区港南台4-11-1 電話 832-0617

★★

## すべてが勝利者

校長 高田 桂太郎

暑さが一段落し、登校してくる子どもたちの服装も少しずつ秋色になってきました。「今日は、少し涼しくていいね。」と声をかけると半袖Tシャツの子が「暑い方がいい！」と言って元気に駆け抜けていきました。つい自分の感覚で子どもたちに声をかけてしまいましたが、子どもたちは思いの外エネルギーで感動してしまいます。季節は秋に変わっていきますが、子どもたちには、変わらず元気に学校生活を送ってほしいと思っています。

日頃より、保護者や地域の皆様には、子どもたちのために、毎日の健康観察や地域の見守りなどをしていただき、本当に感謝しております。10月29日(土)は、創立40周年記念運動会を予定しております。今は、リレーの選手や応援団のメンバーが決まり、少しずつ練習が始まっています。学校は、前期が終わり、後期へと入ってまいりますが、引き続きご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

さて、私が幼稚園のときの運動会の思い出です。いつも仕事で忙しい父が運動会に来てくれたので、私は、徒競走で一番になりたいと思って張り切っていました。しかし、スタートと同時に全員に追い抜かれ、みるみる離されていきました。先頭の子がゴールテープを切ったとき、私は、いたたまれなくなり、コースを勝手に外れ大きな木の陰に隠れて座り込んでしまいました。年長の子が参加賞の飴を持ってきてくれたような気がしますが、頭が真っ白になり後のことはよく覚えていません。

帰り道で、父に「どうだった。」と聞かれましたが、私は何も答えられず黙っていました。すると「お父さんは、桂太郎がビリでもよかったんだ。でも最後まで走ってほしかった。」と言われました。その時、初めて涙が出て、わんわん泣きました。今思い返すと、安心すると同時に「逃げなきゃよかった。」と本気で後悔したのかもしれませんが。

だから、私は運動会の徒競走の応援は、ひとときわ熱が入ります。颯爽と走り抜けていく子ども格好よくて素敵ですが、自分の思う順位にならなくても必死に最後まで走る子への応援にも力が入ります。「負けるな、負けるな」と応援します。私が学級担任をしていた頃、クラスの子たちに運動会の作文を書いてもらったとき、団体演技や競技のことより徒競走のことを書く子が意外と多いことに気付きました。それだけ、子どもたちにとって徒競走は自分に向き合い、自分と戦う競技なのかもしれません。だから、私は徒競走で順位は気にしません。自分に向き合って戦った子は、すべて「勝利者」です。

子どもたちが考えた今年の運動会のスローガンは「一人ひとり かがやき笑える運動会」です。一人ひとりが自分のよさを輝かせ、最後は、笑い合い、称え合える運動会にしたいという思いがこもっているそうです。私たち教職員一同も、この子どもたちの思いが実現できるよう、全力で支えていきます。

保護者や地域の皆様にも引き続き、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。